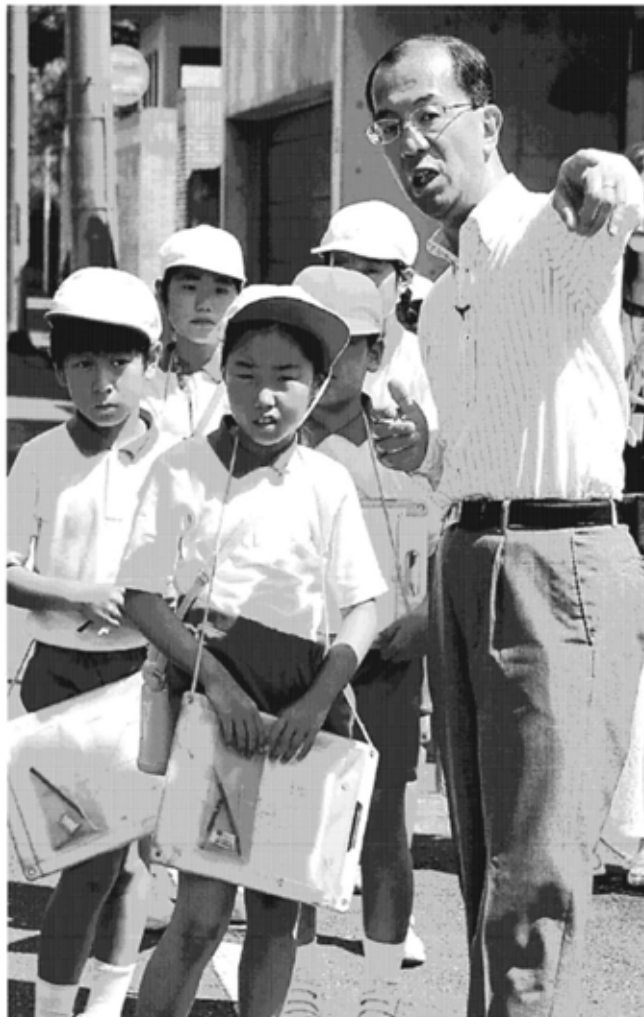


# 世田谷の小3 78人「教室」参加

子供たちが危険な場所の予測能力を身につけ、犯罪に巻き込まれるのを防ぐ「地域安全マップ」作り教室（主催・「だいたいようぶ」キャンペーン実行委員会、特別協賛・東急グループ）が12日、世田谷区の東京都立大学付属小学校（重永睦夫校長）で開かれ、3年生78人が学んだ。写真。

## 地図作り 身守ろう

教室では、小宮教授が危険な場所のキーワード「入りやすい」「見えにくい」を紹介。塀の高い道路やごみが散乱した公園がなぜ危ないか、寸劇などを通して教えた。学校周辺での実地調査では、子供たちが「危険な場所」「安全な場所」を自ら考え、写真を撮影。マップ作りでは「その場所がなぜ危ないのか」という理由を書いたコメントを写真に添付し、地



図に張り出した。子供たちは「危険なところ、安全なところが分りました」「周りを警戒して歩きたい」などと語った。【小野博宣】